



株式会社向陽エンジニアリング

代表取締役社長
やまもと かつみ
山本 克己さん

プロフィール
1961年、東京都江戸川区生まれ。安田学園高等学校（東京都）を卒業後に関東自動車工業株式会社（現トヨタ自動車東日本株式会社）に入社。1981年、同社を退社後に石巻市へ。1984年向陽電子株式会社（現株式会社向陽）に入社。2004年に管理部長として株式会社向陽エンジニアリングへ。常務取締役を経て2012年より現職

あすを拓く

二度のピンチを救ったのは、
オンリーワンのものづくりと確かな技術力。
宮城県で唯一のパーツフィードメーカーが、
時代に合った人づくりを掲げ成長を続ける。

ルーツは製造ライン改善部隊 株式会社向陽エンジニアリング

1980年代、電機・電子作業は自動車産業とともに日本経済をけん引する主力産業だった。当時、山本さんが働いていた向陽電子株式会社にもたくさんの方が働いていて、常に人手が足りない状況だった。

同社でラインリーダーを務めていたという山本さん。「製造現場の人手不足を解消するため、社内にはライン改善に取り組み、何でもやる課」が立ち上がりました。その時は、製造現場に携わる一社員として時代の流れを受け止めていた程度でした」と振り返る。その後、何でもやる課は「パーツフィードメーカー」「向陽エンジニアリング」として独立した。

それから10年以上が経ったある日、山本さんは当時の社長に呼ばれ、向陽エンジニアリングへの異動を告げられたという。「まさに、寝耳に水でした。これまで製造部門で培ってきた生産管理の腕を買われて、社内体制の立て直しを任せられました。確かに部門間や社員同士の連携がうまく取られておらず、組織としては危機的状態、かなり大胆な改革を強行しましたね」

リーマン・ショックと東日本大震災 度重なる危機を乗り越える

その後、順調に業績を伸ばしていった同社であったが、2008年9月に「リーマ

ン・ショック」が起こると、状況は一変する。世界市場が混乱し、日本経済にも大きな影響を及ぼした。円高が進んだことで日本の輸出産業は大きな打撃を受け、多くの製品を海外に輸出していた同社の売り上げも3分の1まで落ち込んだという。

「当時は、本当に驚きました。11月まで忙しかったのに、12月になった途端、ピタリと仕事がなくなりましたから」
断腸の思いで減給に踏み切った結果、先行きの不安から退社する従業員も出た。しかし、パーツフィードメーカーとして培ってきた技術力を信じ、社員一丸となつてもものづくりに打ち込んだ。2010年に入つて世界経済に復調の兆しが見えてくると、同社の業績も持ち直し始め、翌11年3月には、リーマン・ショック前まで売り上げが回復したという。

そんな矢先に、今度は東日本大震災が発生した。幸い工場内の被害は軽く、津波の被害も受けなかったが、多くの従業員がすぐには出社できない状況だった。「しばらく工場は稼働できないだろう。残った仕事は、ほかの企業に代わってもらうしかない……」と山本さんは大きく肩を落としたという。

しかし、「うちのパーツフィードはここにしか頼めない。工場が再開するまで待ちますから」との取引先からの声で、パーツフィード製造の仕事だけは残った。こうして主力事業のおかげで、同社は再び息を吹き返した。

長年培った技術を残すため 次世代を担う人材確保に奔走

2012年、社長に就任した山本さん。業績は右肩上がりだったが、従業員の高齢化が課題となっていた。当時の平均年齢は40歳以上。「早急に若い人材を確保し、技術を継承していかなければならないと、ハローワークや工業高校を通じて求人募集をしても、全く応募がありませんでした」
その頃、ひきこもりや早期退職した若者の就職と自立を支援する団体から、就労体験受け入れの打診があった。地域貢献のつもりで快く引き受けたが、ひたむきに仕事と向き合う姿に「光」を感じたという。「ものづくりを楽しむ気持ちがあれば、未経験者や早期退職者でも十分な戦力になるはずだと直感しました」

その後、支援団体の紹介で人材を採用。今年の春には高校新卒者を2人採用し、社内の若返りが進んだ。引き続き就労体験を受け入れていくほか、高校の教員を招いた企業説明会や中学生の職場体験の受け入れなど精力的に取り組んでいるという。

「若い人材も増えたことから、経験豊富な従業員を教育担当に任命し、人材育成にも力を入れています。今までのような「仕事は見えて覚えろ」という方法ではなく、マシントーマンでじっくり育てていきます」と山本さん。世界中のものづくりの現場を支えるパーツフィードメーカーとして、同社の挑戦はこれからも続く。



同社が設計製造したパーツフィード。ドラムの中で小さな部品が自動的に整列されていく

「パーツフィード」は、ネジなどの部品を振動の力を利用して自動的に整列させ、加工機や組立機に供給する装置のことである。部品をフィード内に投入するだけで、人の手を借りずに加工や組立てが行われることから、生産の自動化や省力化を図る切り札としてさまざまな工場で導入されている。

パーツフィードを製造する株式会社向陽エンジニアリングの工場内で、社長の山本克己さんは、産業用ロボットアームの動きを静かに見つめていた。
ものづくりの自動化が加速していく中、同社では数年前から産業用ロボット開発の技術力強化に取り組んでいるという。
「そのために若い人材を採用し、長年培ってきたものづくりの技術を伝えていく必要があります。これまでを振り返ると、人材確保と人材育成は、私にとってずっと悩まされ続けたテーマでしたな」



装置を組み立てる20代の従業員。ものづくりを通して仕事の楽しさとやりがいを感じているという



教育担当者から技術指導を受ける。1年かけて基礎を身に付けた後、グループ企業で専門的な知識を学ぶという



「組織を細分化し、誰でも管理職になれるチャンスを広げたい」と語る



株式会社向陽エンジニアリング

向陽電子株式会社の改善部門として発足。1989年4月に、ライン改善・省力化関連の機械加工メーカーとして設立。パーツフィード製造で培ったノウハウと技術力を強みに、多くの大手メーカーと取引を行っている

所在地

石巻市北村字大尻三-1
TEL 0225-73-4531

http://koyogroup.net/ko-eng/

